

# 総動員伝道

## 総動員伝道の目標

1. すべての人に福音を伝えよう。
2. すべてのクリスチャンがよいあかし人になろう。
3. すべての教会が成長しよう。

## 祈りと伝道

総動員伝道 委員 安藤能成



そして、私たちは、もっぱら祈りとみことばの奉仕に励むことにします。

(使徒六・4)

「困ったときの神のみ」というのは都合の良いすぎる人間の勝手と思われるかも知れない。

しかし聖書を読みると、主イエスの福音の御言葉に耳を傾けて集まり、入信した人はどのくらい居ただろうか。主のもとに来た人々の多くは病氣や悪霊に悩んでいたからである。そして主イエスはそれらの人々を迎えていやされた。

教会に助けを求めて来られる人々は

はじめは靈魂の救いを求めようとしてではなく、そのとき直面している問題の解決や支援を必要として来るのであるから福音の聖書の教理を説明しても、その人の求めている答えには成らないこともある。むしろ、その問題に如何に答えられるかによって、その人の魂を神につながれるかどうかということになる。

牧師の手に神から委ねられているのは祈りとみことばである。聖書によって神の真理と御旨を伝えることと、人々ためのとりなしの祈りである。

牧師は、よろず相談屋でもないし心理カウンセラーでもない。お応えできない事柄はそれぞれの専門家に紹介した方がよい。しかし祈りの働きは絶大である。

祈りは直接魂を神につなげられる神の恵みの手段だからである。

「もし、あなたがたのうちのふたりがどんな事でも、地上で心を一つにして祈るなら、天におられるわたしの父は、それを

かなえてくださいます」(マタイ十八・19)。私のところに相談に見える方々に、あるいは依頼されて訪問させていただいたところでは、まず相手のお話をしっかりと聞かせていただいて、アドバイスをさせていただけることはするが、これから先は人間ではなく神の御力によらなければならぬと思いついた時点で、祈りに導くことにしている。

今まで一度もキリストの神に祈ったことがないという人であっても、先に自分がその人ために祈り、次に導きつつ祈ってもらい、おしまいはその人自身の言葉で自分で祈ってもらうことができる。

そして祈るときには聖霊が働いてとりなしてくださるのである(ローマ八・26) 27参照。

祈ると不思議に答えが示される。そして祈りによって神につながられた魂は信仰に進み、それから聖書教理によって整えられて行くことができる。

最近、私は牧師ですから、牧師がするべきことをさせていただきます、と言って、主イエス・キリストのことを語り、祈るようにしている。すると不思議にそれを拒む人はいない。

## 伝道メモ 58



昨年は総動員伝道主催の研修会を、山口市、盛岡市、秋田市で開催した。大勢の参加者ではなかったが、地域の伝道に心燃やしている牧師、役員達が参加された。

## 人がなかなか教会に来ない

どの地域においても同様なことはなかなか新しく人々を教会に迎えることが出来ていないということである。教会としては、人々が関心を持ってくれそうなことに思いを寄せていろいろな企画をし、趣向を凝らしているが、如何せん人が来ない。集会案内のために、ちらし、ポスター、はがきを作ってみた。インターネットも活用した。地域のミニコミ誌にも掲載してもらった。一軒一軒、ちらしを配った。あと、打つ手は何だろう？ と思案する。

## ひとりがひとりを

「ひとりがひとりを」というキャッチ・フレーズはもう古い。しかし、これこそが基本であることは間違いない。ちらしやインターネットで不特定多数に働きかける。よく言われていることだが、1万枚案内を配布すれば、ひとりが来る。投網でバサッと広く網を打つが、中に入っているのはたったの1匹、といった感じである。

最近インターネットで教会を検索する人が増えているようだ。昨年のクリスマス・イブにコンサートをした。はじめて来られた方の25%はインターネットを見てのことだった。でもコンサートの後、続けてくる可能性は限りなく低い。というのも、「ひとりがひとりを」という個人的なつながりがないからであろう。

## アンケートから

あるアンケートの結果を見た。クリスチャンに尋ねている。「あなたは過去3年間に、友人・知人を教会に誘ったことがありますか」という質問である。なんと81%の人が誘ったことがある、と答えている。すばらしい！ところがクリスチャンを知り合いにもつノンクリスチャンにしたアンケートでは次のような結果である。「あなたは教会に

誘われたことがありますか」。40%の人が「誘われたことがない」と答えている。クリスチャンは誘ったつもりであるが、ノンクリスチャンは「誘われたことがない」と思っている。

私たちにとって励ましになることは、アンケートを受けたノンクリスチャンの36%は、誘われたので教会へ行った、という数字である。やはり、人々が教会に来るきっかけとなったのは、個人的に誘われたからである。

クリスチャンで「だれも誘ったことがない」という人が15%いた。なぜ誘わないかというと、「誘う相手がいない」との返事である。日曜日は教会に入り浸り。あとの日は仕事。ノンクリスチャンと接する機会がない。となると誘うべきノンクリスチャンとの接点がない。戸別に、不特定多数にちらしを配布するのがせめてもの接点。これでは個人的に誘ったことにはならない。

誘ったと答えた人でも、3年間に家族を10回誘った、友人・知人の3人を5回誘ったというのが最高であった。折りあるごとに誘ったというのではないらしい。

## ノンクリスチャンとの接点

ある人はノンクリスチャンとの接点を作るためにスポーツやいろいろな文化教室に通っている。テニスやゴルフなど、またジムに行つてエアロピクスや太極拳に参加している。碁や将棋の仲間を作るのも良いだろう。

普段から工夫してノンクリスチャンとの接点を作りたいものである。この接点から個人的に「誘う」関係が作られてくる。個人的に誘われてくると、集会の後もその関係は続いているので、その方が続けて教会に入りする可能性は高くなる。

今年は何人を教会に誘うことが出来るかな？ チャレンジのしがいがあるテーマではなかろうか。(姫井雅夫)

医療法人社団 誠志会

**誠志会病院**

\*\*\* 看護師募集中 \*\*\*

院長 岡田信良

〒174-0043 東京都板橋区  
坂下1-40-2

TEL 03-3968-2621

## ◆シリーズ 21世紀の宣教ビジョン 日本イエス・キリスト教団 荻窪栄光教会牧師 中島秀一

### \*前文

教団はこれ迄に「21世紀宣教プロジェクト」(1990～2000)、「21世紀宣教推進プロジェクト」(2001～2005)を掲げて宣教の方向付けをしてきた。これらを継承しつつ「第二次21世紀宣教推進プロジェクト」(骨子)(2006～2012)を提案する。(第55回教団総会)。

### \*テーマ

『新7カ年共働伝道  
—躍進と強化—』

(注)「共働」とは、教団が主導権をとりつつ、教会・教区・各局・神学校が力を合わせてプランを立て、毎年担う役割を明確化して、共に祈り合い、共に汗をかき、共に痛みを分かち合い、共に励まし合い、共に労していくことを意味している。

### \*聖句

「キリストの良い兵卒として、わ

たとしと苦しみを共にしてほしい」  
(第二テモテ2章3節)。

### \*将来像

「日本全土への宣教の達成と健全な教会形成」

### \*目標

躍進のための共働

日本全土を視野に入れた開拓伝道を展開していく。単なる全県都伝道や単発の開拓ではなくして、宣教戦略を構築していく中で宣教ベルト地帯を生み出していく。そのために今後7年間で7教会を生み出していく「集中開拓伝道」を推進する。生み出される方法は、各個教会の株分け・教区開拓・教団開拓のいずれであっても教団全体で共働していく。なお派遣される教職は「国内宣教師」という位置づけをしていく。〔開拓地〕2006年度は佐賀県の鳥栖市、2007年度は堺市の深井を予定している。

強化のための共働

霊交互助の精神を生かしつつ、各個教会が自治(自分たちの手で自分たちの教会を治める)・自給(必要を他に依存しない)・自展(自分たちの手で宣教に従事する)という「自立」を目指す。そのためには『各個教会の実情を見直し、教会(教職と信徒)の理解と分かち合いの中で、地域のセンター的教会を中心に霊的・人的・経済的に協力して教会形成をしていくことにより、また伝道所として統合してい

くことにより、教会の活性化を進める。また毎年教区単位で「集中伝道応援」を展開していく。

人づくりのための共働

教職と信徒の双方において、働き人の継続的確保とリーダーシップの継承が教団全体で取り組まれて行くことは急務である。そのために以下のコースを設ける。

### \*教職者宣教コース

神学生修養会から神学校卒業後5年目まで一貫した教職養成プログラムを設ける(教学局・伝道局が主催)。

### \*教職者リフレッシュコース

教職者の継続教育を進め、祈り・学び・分かち合いのプログラムを設ける(総務局・伝道局・教学局が主催)。

### \*教職者シニアコース

高齢者教職の祈り・学び・分かち合いのプログラムを設ける(総務局が主催)。

### \*信徒養成コース

各教区に設けて、信徒伝道者の養成、教会役員の養成を進める。

### \*追記事項

①7年間の年毎の重要テーマは、前期3年のテーマを設けて、それらを見直して後、後期4年のテーマを設ける。

②「宣教センター」についてはあらゆる宣教情報を発信できることを第一の使命とする。

## アチーブメント株式会社

「選択理論に基づいた、  
人材教育を試みる会社です。」

代表取締役社長 青木仁志

〒141-0022 東京都品川区東五反田  
4-6-6 高輪台グリーンビル3F  
TEL 03-3445-0311(代)

# 第44回 東京イースターのつどい

● 2006年4月16日(日) 3:30p.m.~5:30p.m.

● 淀橋教会(ウェスレアン・ホーリネス教団)

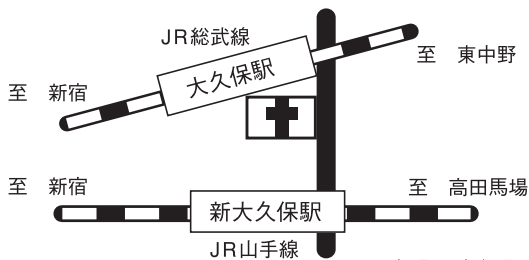
◎メッセンジャー 福澤満雄  
(ジャパン・カルバリークルセード主幹)



「お金で買えないものはない」ではなく、「お金で買えないものはある」のです。聖書は「必要なことはただ一つだけである」と教えています。ぜひご来会下さい。あなたはそれを発見することが出来るのです。

\* 入場無料 (自由献金あり)  
救世軍によるコーヒーサービスがあります。  
車椅子の介助、要約筆記、手話通訳が用意されています。

◎音楽ゲスト(アコーディオン)  
檜山 学



※会場に駐車場はありません。



◆第六五話

聖書名目ずくし

1節 創出レビ民申命記、ヨージュ

ア士師ルツサム列王、歴代エズネヘ  
エステル書、ヨブ詩箴言伝道雅歌

2節 イーザヤエレ哀エゼダニル、

ホーセアヨエアモオパヨナミ、ナ  
ホームバクタクゼバハガイ、ゼカリヤ

マラキさんじゅうく(39)

3節 マータイマコルカヨハネ伝、  
使徒ロマコリントガラテヤ書、エ

ペソピリコロテサロニケ、テモテト  
ピレモンへブル書

4節 ヤーコブペーテロヨハネユ  
ダ、ヨハネの黙示にじゅうしち(27)、

旧新両約合わせれば、聖書の数はろ  
くじゅうろく(66)

聖書全巻の名前とその順番を知らない人が案外多いのではないか。私たちの教会では、子供・成人科クラスで聖書名目ずくしを鉄道唱歌に合わせてよく歌う。私の神学校入試の時、聖書全巻の名前を書けとあったが、覚えていて助かった。あなたはゼパニヤ書をパッと開けるか。聖書名目ずくしどうぞ！ 住吉英治

●ご支援、感謝いたします。

昨年11月には約40万円の赤字でしたが、皆様の尊いご支援によって1月は左の表のように小さくなつてまいりました。心からお礼申し上げます。

〈総動員伝道の組織〉

代表・ 姫井雅夫

委員・ 有賀喜一、福澤満雄、中島秀一、

北條和人、安藤能成、住吉英治、

鈴木留蔵、岡田信良、多胡元喜、

塩島光三、クレイグ・カックス、

浅見鶴蔵、姜 星光

顧問・ 羽鳥 明

相談役・ 小助川次雄、村上宣道

## 1月会計

収入	280,600
活動費	42,051
印刷・発送	42,225
部屋代	195,422
人件費	0
積立	10,000
支出計	289,698
累計	-83,856

2006年4月1日発行  
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1  
OCC、614号室

総動員伝道

TEL 03-3291-5035

FAX 03-3291-5266

Eメール sodoin@ybb.ne.jp

ホームページ

http://www.gospeljapan.com/sodoin/

振替 00140-1-107255

代表 姫井 雅夫

編集 住吉 英治

定価 一部 10円 (送料別)

印刷 新生宣教団 (2,500枚)